

平成31年度 施設としての自己評価

八幡 おひさまの森保育園

平素は八幡おひさまの森保育園の運営にご理解ご協力いただきまして、ありがとうございます。
以下の通り、園の自己評価を付けました。今後一層より良い園になるよう職員一同努力してまいります。

【1】どちらかというのできていなかった 【2】どちらかというのできていた 【3】ほぼできていた 【4】よくできていた

年目標	自己評価	内容
●保育内容(今年度の重点)		
・保育目標【居場所の提供】	2	毎月のミーティングでねらいをすり合わせ、場面に応じて特定の保育者と愛着関係が築けるよう、援助についての共有、職員配置の共有など行うよう努めた。個々の気持ちを丁寧を受け止めながら、個々のペースで関わったことで、安心できる居場所になれたと感じる。
特定の保育者との愛着関係が結ばれ、どの子にも安全基地となる居場所がある保育園になるよう、4月からの個々の関わりを考えていく主張したい想いを伝えたりしながら過ごせるように、共感や受容的な姿勢で関わる		
・保育目標【主体性があり、自分で遊びや楽しさを発見できる子に】	2	個々の興味をしっかりと捉え共有することで全体の意識向上へとつながったように感じる。
子どもが好きな遊びを見つけ、じっくり遊び、主張したり模倣したりしながら関わり合えるよう、個々を捉えていく		
・ことば	1	まずはクラスごとに分析。保育過程と照らし合わせながらねらいに入れてクラスの職員が実践し学びを繰り返す。言葉かけについての個々の意識は若干高まったようにも感じたが、分析し、実践に移すまでの過程のすり合わせ、後追いが十分になされていなかったことが反省としてあがった。
一人ひとりの言語発達を理解し、歳児にあったセンテンスで話す		
●施設設備		
・園外環境について	2	子どもたちの興味関心、身体の育ち、保育目標を保育者全員で共有し、保育者のポジションを明確にすることで、ねらいに合わせた環境を作りながら日々保育をした。
園庭での遊びや環境は保育目標に添った子どもの成長を促すものとなっている		
・衛生面について	2	家庭での様子、進め方を聞きながら園での給食をより分かりやすくするために写真等で量や形状等伝えていった。日々のやり取りから、園での様子をご理解いただけた一方でもっと給食の想いなどにも触れて伝えることが出来たらと課題が残った。
給食の献立内容や形状は個々状況に添ったものであるか、家庭との連携のもとで確認していく		
●運営		
・地域との関わり	3	一時預かりでの子育て相談や保育園入園に関する相談を伺ったり、サポートできるような体制をとった。
地域との連携を深める		
・保護者との連携体制について	3	おたよりでねらいをもった保育のお伝えをしてきたが、子どもの育ちを伝えるという点では内容と伝え方に検討が必要であると感じた。連絡帳の書き方は、保育者間で事例を挙げながら話し合う時間を持ち、よりよく伝えられるよう努めた。
園の様子をご理解いただけるよう、口頭でのお伝え、園だよりの内容や連絡帳の書き方を検討する		
・感染症への対策について	3	感染症時系列をとり、あわせて掲示等で知らせていった。また、朝の検温や消毒の徹底にご理解ご協力いただけるよう伝えた。幼児は、手洗いうがいの習慣を身に着けられるよう意味や意図を繰り返し伝えたことで習慣化できてきた。
感染症についての状況をこまめに提供し、拡大防止に努める		

【総評】

ミーティングで発達の根拠をすり合わせ、先のイメージをもって各クラス日々の保育を計画して行くことで、保育が明確になった。一方で、実際に育ちを感じながら見通しを持った保育、お伝えの仕方に課題を残した。保育過程の発達段階をイメージしながら、個々にあった関わりを学び、スキルの向上に努めます。まだ課題が残る部分を次年度につないでいきたいと思えます。

令和2年3月31日

園長 笠原 陽子

上記の園自己評価の結果を掲示ともに開示させていただきます。尚この掲示は3/1から来年度4/末日まで開示します。